

医科研病院だより



第57号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
令和4年10月15日
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】	東京大学医科学研究所附属病院におけるワクチンの今後・・・ 1
	すこやか・カフェ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
	栄養サプリ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
	なんでも・ひろば・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

東京大学医科学研究所附属病院におけるワクチンの今後 —加速するワクチン開発・臨床試験— 病院長 四柳 宏

ようやく涼しさを感じる毎日になりました。皆様のお手元にはそろそろオミクロン株に対応した新しいワクチンの案内が届いたのではないかと思います。

オミクロン株に対応したワクチンを含め、現在日本で接種可能なコロナワクチンはすべて海外の企業が作ったものです。日本の大学・企業も同じようなワクチンを作る技術は持っているのですが、欠けているものがいくつもあります。短時間でワクチンを製造するのに必要な設備、安全性を確認するための動物実験を速やかに進めるための施設、出来上がったワクチンの臨床試験を素早く行う体制などです。こうした問題のため、結果新型コロナウイルスに対する国産ワクチンはまだ臨床試験中です。最初に米国産のワクチンが医療従事者に接種されてから1年半以上が経っています。

このような課題を克服し、速やかに国民へのワクチン提供を可能にするため、国は“ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点”を作ることになりました。その中心は“フラッグシップ拠点”と呼ばれます。今回東京大学がこのフラッグシップ拠点に選ばれました。“東京大学新世代感染症センター”と名づけられたこの拠点のリーダーは東京大学医科学研究所特任教授の河岡義裕先生(写真)が務められます。

先に説明したワクチン製造の設備は東京大学の柏キャンパスに設置する予定です。また動物実験は学外の3施設を使って行う予定です。(ア)



(イ) ワクチンの臨床試験は東京大学医科学研究所附属病院、東京大学医学部附属病院(本郷)が中心となり、シナジー拠点に選ばれた4大学(北海道大学・千葉大学・大阪大学・長崎大学)などと協力しながら行う予定です。これらの拠点では今後様々なワクチンの臨床試験を行いながら、新たなパンデミックの際に速やかに臨床試験を行う準備体制を整えます。

現在医科学研究所附属病院では新型コロナウイルスワクチン、インフルエンザワクチンなど多くの施設で行われるワクチンの接種に加え、海外渡航用前のワクチン接種を行っています。今後、様々なワクチンの接種・臨床試験を皆様に案内させて頂く予定ですのでご期待頂ければと思います。

なお、河岡拠点長には12月の第100回市民公開医療懇談会で新型コロナ感染症に関するお話をさせて頂きます。こちらもぜひご覧ください。



すこやか・カフェ



治療のトピック

先端緩和医療科 科長 土方 康基

皆さんこんにちは。ここでは、私たちの部署、「東京大学医科学研究所附属病院・先端緩和医療科」についてお話をさせていただきます。

当科では【がん治療】と【緩和医療】という2つの専門的な視点に基づいた集学的な医療を医師・看護師・薬剤師・栄養士の多職種から構成されるチームで提供しています。

進行がんに対する標準治療に加えて、ゲノム解析に基づく個別化がん治療を探求して提供すると同時に、病気や治療に伴う症状をマネジメントし、患者さんのQOL(Quality of Life: 生活の質)を向上させることを目指しています。国内に限らず、海外からの患者さんにも積極的に対応しています。

1. がん患者さんとそのご家族のQOLを向上させるための緩和医療

がん患者さんとそのご家族は、QOLを低下させる様々な問題に直面しています。疾患そのものに関連した疼痛や呼吸苦などの身体症状や、疾患と向き合うことで生じる心理的負担のほか、がん治療に関連して生じるしびれや悪心などの副作用も日常生活に多大な影響を及ぼします。一方で診断時から患者さんと生活を共にし、支えるご家族にも多大な負担が生じています。私たちは、病期に関わらず患者さんやご家族が抱える身体的・心理的・精神的な問題を一緒に解決できるよう、患者さんやご家族との話し合いをととても大切にしております。医師・看護師・薬剤師・栄養士の多職種での連携のもとでこのような問題の対応に取り組み、患者さんやご家族のQOLを向上させることを目標としています。さらに進行がん患者さんがご自宅でも医療が受けられるよう在宅医療機関との連携も図っており、その関連医療機関は非常に充実しております。当科の最大の特徴は、関連医療機関と連携し、ご自宅や療養施設で過ごされている患者さんが、体調を崩したときには(ス)



(ス) 当院に入院していただき、体調を整えた後、またご自宅で過ごしていただくという、患者さんやご家族の状況に合わせた迅速で柔軟な対応を可能にする体制を構築していることです。

また、当科では緩和医療に関するエビデンスを構築するための研究活動や臨床試験、治験も行っており、緩和医療に関するエビデンスや新たな知見を発信しています。



2. ゲノム解析に基づく個別化がん治療

一般的にがんに対しては、手術や抗がん剤治療のほか、放射線治療などを組み合わせた集学的な治療が行われます。エビデンスに基づいたこれらの標準治療は医学の発展とともに治療成績を格段に向上させています。しかしながらこれらの治療に対して抵抗性を示す難治性の腫瘍が一定の割合で存在し、医療の現場で課題となります。このようなケースで適切な治療を選択するために、次世代シーケンスによるがん細胞の遺伝子解析などが有用なツールとして普及しつつあります。当科では当院ゲノム診療部と協力し、臨床研究で腫瘍細胞のゲノム情報を正常細胞のものと比較し、人工知能(AI)とデータベースを用いることで個々の患者さんにとって適切な薬剤を選択しています。我々は、がんに対する標準治療に加え、臨床研究としてゲノム解析に基づく個別化がん治療の機会を提供しています。

また各医療機関が得意とする分野で連携しながら患者さんにとっての最適な治療を各協力医療機関で受けていただくなど、あらゆる治療法の可能性を探索します。

最後に、私たちは患者さんやご家族の皆さまが満足のいく治療が受けられるよう、患者さんに寄り添った医療の提供を心掛けています。当科を受診希望あるいはご質問のある方はどうぞお気軽にご連絡下さい。





すごいぞ！ お豆腐

別名「畑の肉」とも呼ばれている大豆の加工品である豆腐。
なぜ豆腐が健康にいいとされているのかこっそり教えちゃいます。

血圧上昇を抑制！

豆腐にはカリウムが多く含まれており
カリウムはナトリウム(塩)の排泄を
促し、血圧上昇を抑制します。

脳の活性化に！

豆腐に含まれているレシチンは
脳情報伝達に関わる神経細胞の
重要な材料となり、脳の老化
ボケ予防に効果的です。



貧血の解消

豆腐に豊富に含まれている
モリブデンは鉄の利用効率を
上げるので貧血予防に効果的です。

消化吸収がバツゲン！

豆腐は大豆の組織を破壊し、
消化の悪い繊維質(おから)を除き
凝固させたものなので消化吸収が良い。

食べてみて！豆腐チャンプルー

豆腐は脇役にされがちですが、メイン料理も数多くあります。

今回はメインの豆腐料理、豆腐チャンプルーをご紹介します。今夜いかがですか？

野菜いっぱい～！
満腹もちがいなし！



分量(1人分目安)

・木綿豆腐	150g(1/2丁)
・もやし	80g(1/3袋)
・玉ねぎ	40g(小1/4個)
・人参	15g
・にら	15g
・卵	50g(1個)
・サラダ油	3g
・料理酒	4g
・ガラスープ素	2.5g
・しょうゆ	4g
・塩	0.2g
・こしょう	0.1g
・ごま油	3g
・けずりかつお	0.5g

作り方

- ①豆腐はしっかり水切りをして一口大に切る。
- ②もやしは洗い、にら、人参、玉ねぎは4～5cmの長さに切る。
- ③サラダ油を熱し、野菜、豆腐を炒める。
- ④全体に火が通ったところで料理酒、ガラスープの素、塩、こしょうを加え卵をまわしかける。
- ⑤鍋肌からしょうゆをまわし入れ、仕上げにごま油を加え器に盛りつけてけずりかつおをふりかければ出来上がり♪

エネルギー282kcal たんぱく質19.4g
食塩相当量 1.9g 食材費126円

なんでも・ひろば



地域連携室の活動・紹介

地域連携室 金澤 亜由美

皆様、初めまして、地域医療連携室退院支援看護師の金澤と申します。

今回は医科研病院の地域医療連携室をご紹介します。

地域連携室は、患者さんの受診、入院退院、退院後の支援、医科研病院ホームページの各科紹介ビデオ支援や連携する医療機関との連携、さらには市民公開医療懇談会や医療連携懇談会等様々な任務を担っています。地域医療連携室は室長、病院課長、病院副課長、看護師長、副看護師長、看護師、ソーシャルワーカー(SW)、事務職員で構成されており、医科研病院のご案内窓口として地域の医療機関と連携し、患者さんにスムーズで最適な医療を受けていただけるようご支援しています。連携室長であり副病院長の長村先生は明るくユニークな先生で流行にとっても敏感です。大変お忙しい先生ですが、私たち室員へ様々なご提案をしてくださり、頼もしい存在です。



病院課長は事務部門の責任者です。地域医療連携室が行う会議や事業の取りまとめ役です。看護師長は患者さんへ適切な支援が来ているか確認し、困った時には的確なアドバイスを下さり心強い存在です。退院支援看護師は、患者さんが在宅サービスを利用したい時に 手続きの説明をするほか、実際にサービスが活用できるまでトータルにサポートしています。介護ヘルパーを利用したい方には介護保険など制度の説明から申請支援、ケアマネージャーの手配も行います。訪問診療、訪問看護師が必要という方も、主治医と相談しながらご自宅近くの訪問医をご紹介します。

(※)するほか、訪問看護ステーションの手配もしています。日常の困りごとを丁寧にお聞きして、安心して治療が受けられる環境整備をお手伝いしています。SWは高額療養費など医療費の相談に応じているほか、身体障害者手帳や難病医療、障害年金などの制度のご案内をしています。手術を受ける際の医療費の相談や、利用できる福祉制度があるか確認したい方はお気軽にご相談ください。当院での治療が終了し、さらに専門的に他施設での治療の継続が必要な方や転院を希望される方への転院先のご紹介や、施設入所のご支援も行います。事務職員は地域の医療機関から紹介患者さんの予約をお取りするほか、セカンドオピニオンのご相談に応じています。医科研病院で治療を行っている患者様も、これから治療を受けようかとお考えの方も、何かお困りのことがあればどうぞお気軽に地域医療連携室までご連絡ください！

写真:<医科研病院 地域医療連携室>
下段左より 神病院課長、長村室長(副病院長)、間宮事務員 上段左より 梅谷事務員、杉原副師長、渡辺SW、金澤看護師

<医科研病院 地域医療連携室>

- ご紹介患者さんの受診予約・セカンドオピニオン
➡ 03-6409-2042
- 退院支援看護師・ソーシャルワーカーへのご相談
➡ 03-6409-2029

◆病院からのお知らせ◆

- 臨床検体の取扱いにつきまして
当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は
<http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html>
をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

内科 (総合、血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、消化器)
外科 (一般、腫瘍、消化器、乳腺)、整形外科 (関節)
脳腫瘍外科、放射線科、麻酔科、遺伝相談



外来診療日

月曜日～金曜日 (祝日および年末年始を除く)

診療受付時間

8:30～11:30 (初診・再診)
12:30～16:00 (再診のみ)
※予約時間の15分前までに受付にお越しください。
(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)
予約専用電話 (予約受付および変更)
診察: 03-5449-5560
検査: 03-5449-5355
受付時間 8:30～17:00 (外来診療日のみ)

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分 (1メーター)
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車